

### 3 1 欠陥箇所番号 1 日本の世界遺産／（山川出版社）従軍慰安婦

1	表見返		「日本の世界遺産」（全体）	生徒が誤解するおそれのある表現である。（文化遺産に限定されている。）	3-(3)
---	-----	--	---------------	------------------------------------	-------

これは、教科書検定の基本姿勢に関わるダブルスタンダード事例として、ごく最近見つかったものである。

自由社に対して付けられた検定意見は、要するに、世界遺産の中に文化遺産だけでなく自然遺産もあるのだから、文化遺産のみを上げているのは、世界遺産についての誤解を招くという趣旨である。当方は、もともと歴史教科書で紹介する世界遺産は文化遺産なのであり、自然遺産が関係するのは理科の分野であって、これでよいと反論したが認められなかった。

ところが、山川出版社の教科書に「従軍慰安婦」の記述が復活したことが国会の議論になるなかで、同社の教科書の次の記述が問題になった。

戦地に設けられた「慰安施設」には、朝鮮・中国・フィリピンなどから女性が集められた（いわゆる従軍慰安婦）。

ここで、「多数を占める日本人が書かれていないのは、慰安婦について誤解するのではないか」との国会議員の質問に対し、文科省は、この箇所が「戦時体制下の植民地・占領地」の見出しのもとに置かれた記述であるから、日本人慰安婦の存在や数に触れなくても構わないという趣旨の答弁をしたのである（3月22日参議院文教科学委員会）。

問題の論理構造は同一である。自由社に対する検定意見が妥当であるとするなら、山川出版社に検定意見を付けないのは不当であり、ダブルスタンダードである。しかも、生徒にとって「従軍慰安婦」は教科書で初めて聞くことばだから、ほぼ確実に「従軍慰安婦は日本以外のアジアの地域から女性を集めたものである」と誤解するであろう。検定姿勢の根本にかかわる大がかりな「ダブルスタンダード検定」の事例であるといわなければならない。

### 3 2 欠陥箇所番号 10 この150年

10	3	囲み	「3 高度100メートルから見た日本は「町工場の国」だ」中、「黒船来航で西洋文明の衝撃を受けた日本はこの150年間に工業立国をめざして成功しました」	生徒が誤解するおそれのある表現である。（「150年間」）	3-(3)
----	---	----	--	------------------------------	-------

指摘箇所は巻頭の見開き 2 ページを使ったグラビアのページで、タイトルは「日本歴史の舞台」。見開き 2 ページの真ん中に、択捉島から沖縄に至る日本列島の地図が配されている。日本列島はほとんど緑でおおわれていて、海岸線や川沿いに、ところどころに平地があるだけだ。これは高度 1 万メートルの上空から見た、日本列島の姿である。

高度を下げていくと、視野に入るものが違ってくる。それを、高度 1 万メートル、高度 1 0 0 0 メートル、高度 1 0 0 メートルの 3 つについて、見え方の違いを想像してみる。すると「三つの日本」が見えてくる、と初めにうたっている。以下、三つの日本を引用する。

【1 高度 1 万メートルから見た日本は「森の国」だ。

縄文時代 1 万数千年 私たちの先祖は豊かな自然の幸に恵まれて暮らしていました。多様で柔軟な日本文明の基礎はこの暮らしの中でつちかわれました】

【2 高度 1 千メートルの上空から見た日本は「水田の国」だ。

昔は「豊草原瑞穂の国」とよばれました。この 2000 年あまり 豊かな実りが日本文明を支えました 大陸や半島の国々から学びながら 独自の文明をつくりあげました】

【3 高度 100 メートルから見た日本は「町工場」の国だ。

黒船来航で西洋文明の衝撃を受けた日本はこの 150 年間に工業立国をめざして成功しました】

この教材は、3 つの空間的視野の違いが 3 つの時間的オーダーの違いと重なり合うことに着目し、地理から歴史への橋渡しを意図して書かれたものである。

まず強調しておきたいのは、このグラビア記事は『新しい歴史教科書』の過去 2 回のバージョンで、このままの形で合格しているものだという点である。検定意見がついたのは今回が初めてだ。教科書調査官は欠陥箇所を「一発不合格」のラインに届くまで積み上げようと、必死で蚤取り眼をさらして「欠陥」を探しまくったのであろう。

そうして「発見」されたのが、「この 150 年間」という言葉である。ペリー来航は 1853 年。今から 167 年前だから「150 年」は誤りだと言いたいのだろう。

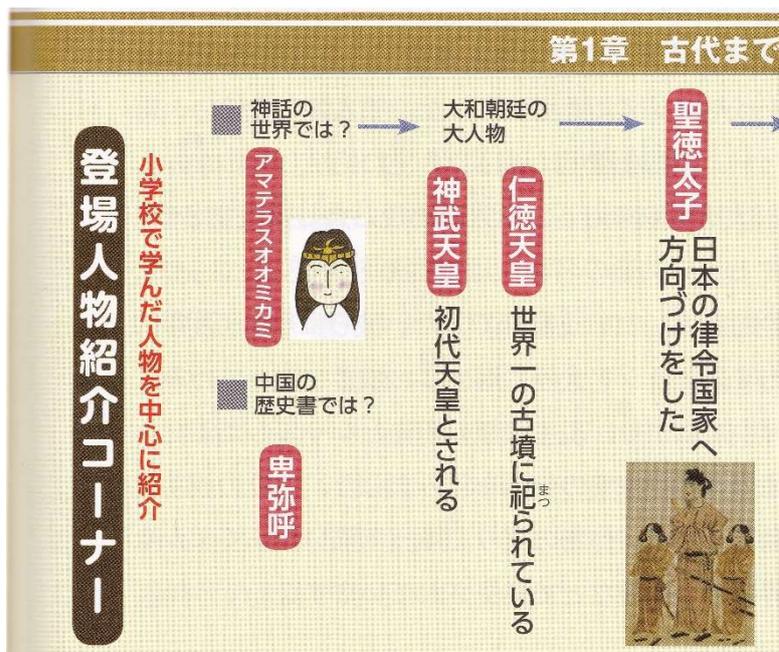
しかし、これは典型的な「揚げ足取り」に過ぎない。文章は書かれている通りに読むのが、「読み」の常道である。筆者が「この 150 年」と書いているのだから、今の時点から遡って 150 年ということである。スパンを決める権利は著者にあつて、読み手にはない。

日本は黒船来航直後から新しい国づくりに踏み出したのではない。新しい国づくりのためにこそ、明治維新という体制の転換が必要だった。「この 150 年間」は明治初期からの 150 年を指している。だから、引用された文章は、断じて「欠陥箇所」ではない。

これを欠陥箇所と言い張るなら、前回この教科書の検定にあたった教科書調査官は、「欠陥を見逃した」責任をとって辞職してから発言すべきである。この事例には「揚げ足取り検定」の醜悪さが露骨に現れている。

### 3 3 欠陥箇所番号 2 8 仁徳天皇

28	19	表	下段「第1章 古代までの日本〈予告篇〉」中、「仁徳天皇 世界一の古墳に祀られている」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （「祀られている」）	3-(3)
----	----	---	--	-----------------------------------	-------



各章の初めに新設したその章の主な登場人物を紹介するコーナーに付けられた検定意見である。古代の天皇、仁徳天皇を「世界一の古墳に祀られている」と書いたところ「生徒が誤解する恐れがある」と指摘された。教科書調査官との面接で調査官からは「葬られている」が正しいとされた。

だがこれはおかしい。仁徳天皇陵とされている世界最大の古墳「大山古墳」の被葬者について、考古学的には議論の余地が残されている。だから「葬られている」とすれば、かえって「誤解するおそれ」があるのだ。

一方で宮内庁はこれまで 124 代の天皇についてそれぞれの天皇陵の場所を比定した。仁徳天皇陵には拝所や鳥居を設け、篤く祀ってきたことは間違いない。特に仁徳天皇は民家のかまどから煙が上がらないのを見て課税を止める仁政を敷いたと伝えられるなど、古くから民衆の敬愛を集めてきた。「祀られる」に最もふさわしい古代の天皇だった。

おそらく、調査官らが言いたいのは「天皇を敬う」ことを生徒たちに教えるにはいけないということのようだ。だから「祀られている」はいけないのだと。しかし、天皇を神のようにして敬うというのは、古くから日本人の自然な感情であり、日本の歴史上不可欠な要素であり、それを否定して日本の歴史を学べるとは思えない。

### 3 4 欠陥箇所番号4 2 ピラミッド

42	23	16 - 17	「④ピラミッドを造ったのは誰か」中、「約2500年前のギリシヤの歴史家で、「歴史の父」と呼ばれるヘロドトスは、『歴史』という本で、「大ピラミッドは、10万人の奴隷が20年間働いて造ったもので、クフ王という残忍な王の墓である」と書きました。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (引用であるかのように誤解する。)	3-(3)
----	----	---------------	---	--	-------

ヘロドトスの『歴史』には、「常に十万人もの人間が、三ヶ月交替で労役に復した」、「ピラミッド自体の建造には二十年を要した」、「悪行は限りを知らず、果ては金に窮して己の娘を娼家に出し」などと書かれている（岩波文庫版）。

これを限られたスペースに収めるために「 」のように要約した。普通に行われていることである。一般に古典的な著作は、グダグダと書かれているものだ。直接引用していたら教科書に収まらない。「 」は直接引用に限るという文章構成上の規則はない。

### 3 5 欠陥箇所番号4 3 中国文明の3大要素

43	25	10 - 11	中国文明の3大要素は、皇帝と、都市と、漢字だといわれます。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (一般的表現であるかのように誤解する。)	3-(3)
----	----	---------------	-------------------------------	---	-------

日本の歴史理解にとって中国の歴史や文明の特色を押さえることは極めて重要なことである。よってその押さえ方の一つとして、皇帝・都市・漢字をその文明の特色として説明することは一つの捉え方として極めて適切である。しかも、執筆者は独断に走らないように「といわれます」と付した。

教科書調査官からの認否書では、「一般的な説であるかのように誤解する、という指摘であり、指摘事項にみられる見解を排除しているわけではない。反論は認められない。」と返ってきた。記述した内容に対しては問題なしとしながら、「生徒が一般的な説であるかのように誤解するおそれがある」という理由で一発不合格につながる検定意見を付けるのは不当であり、限りない悪意があると言わなければならない。

### 3 6 欠陥箇所番号49 古代ローマ

49	27	8 - 20	ローマは政治制度の上で、次の3つのものを後世に残しました。・・・第3は、「祖国」という意識です。ローマの軍隊は指揮官だけでなく末端の兵士に至るまで「祖国のために」という意	生徒が誤解するおそれのある表現である。  (ローマの「祖国」意識について断定的に過ぎる。)	3-(3)
----	----	--------------	---	---	-------

平成29年に改訂された学習指導要領では、中学社会歴史的分野の教育内容として「ギリシャ・ローマ」が入った。学習指導要領の（内容の取扱い）では、「ギリシャ・ローマの文明について、政治制度など民主政治の来歴の観点から取り扱うこと」と指示している。

自由社教科書では、この学習指導要領に基づき、「ギリシャ・ローマの文明」という独立の単元を設け、ギリシャについては民主政の完成が、サラミスの海戦において、無産市民が大きな役割を果たしたことが契機となったことを述べた。現代日本の中学生にとって、民主主義の発展が祖国の防衛に参加する義務と権利の行使の問題と深く結びついていたことを学ぶのが最も教育的であると考えたからである。

同様にローマについても、巨大な帝国を築いたローマ人の事績として、物質文明がすぐに意識される場所だが、そして勿論それも大きな特徴ではあるが、同時に彼らの意識のあり方、とりわけ祖国意識のあり方に着目すべきと考えた。

とは言え、ローマ史を通史として展開するスペースなどあるはずがない。そこで、ローマが政治制度の上で後世にもたらした3つのもの、即ち、共和政による統治の技術、ローマ法、そして、「祖国」という意識を取り上げた。実際、本村凌二氏のように、「祖国」を発見したのはローマ人ではなかったかという説も出ているほどである。

こうした知見をもとに書いたことについて、「断定的に過ぎる」として切り捨てていくなら、歴史を興味深く学ぶ機会は失われて、通り一遍の間違いのない知識だけを学ぶ場に歴史の授業は成り下がってしまうだろう。歴史教育を無味乾燥なものにしているのはまさに教科書検定の現状であるという見本のようなケースである。

### 3 7 欠陥箇所番号66 魏志倭人伝

66	35	16 - 18	魏志倭人伝には、「倭の国には邪馬台国という大国があり、30ほどの小国を従え、女王の卑弥呼がこれをおさめていた」と記されていました。	生徒が誤解するおそれのある表現である。  (魏志倭人伝の忠実な引用であるかのよう誤解する。)	3-(3)
----	----	---------------	---	--	-------

前回の検定では全く同じ文言が何の検定意見もつかず合格していた。担当した教科書調査官もほとんど同じである。カギ括弧が直接引用に限るという規則はない。そんなことを言えば、新聞記者は記事を書けなくなる。学术论文や訴訟記録ではそういうルールがあり得るが、教科書は学术论文ではない。自由社を落とすために、教科書調査官は世の中にありもしない規則を捏造したといえる。

### 3 8 欠陥箇所番号 6 8 邪馬台国

68	35	囲み	「外の目から見た日本 ⑧盗みがなく、争いの少ない社会」 (全体)	生徒にとって理解し 難い表現である。 (同ページ囲み「⑦ 魏志倭人伝より」及 び34ページ15～17行 目との関連)	3-(3)
----	----	----	-------------------------------------	---	-------

この検定意見は「外の目から見た日本」というシリーズもののミニ・コラムで、魏志倭人伝が、倭人の生活と倭人社会の特徴について「盗みをしない」「争訟少なし」と書いていると記したことに対してつけられた。

その意味は極めて分かりにくいですが、カッコ内の付記を読むと、言わんとするところは、「魏志倭人伝より」という、魏志倭人伝を一部要約した引用に「(倭国は男性が王であったころ)国内は乱れて、攻め合いが何度も続いた」にあること、さらには前ページの「弥生のムラから古墳のクニへ」という小見出しがついた本文中の「水田の用水や収穫物をめぐる争いもおこるようになりました」という表現と矛盾するということらしい。

前ページの本文は、弥生時代の一般的ムラの状況を書いたもので、邪馬台国に直接触れたものではないので、その間に「矛盾」を想定するなど論外といわなければならない。

### 3 9 欠陥箇所番号 7 5 古墳と農地

75	37	右下 囲み	「⑧前方後円墳」中、「溜池を掘り灌漑施設を作る時に掘り返された土を盛り上げたのです。古墳の大小は農地の広がりと関係しています。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「古墳の大小」と「農地の広がり」との関係)	3-(3)
----	----	----------	--	---	-------

初期の尾根切り古墳は別として、一般的に前方後円墳は土盛りによってつくられており、その土はどこから持って来たかといえば、溜池などを掘った土を利用したと考えることは合理的である。そうすると、前方後円墳の大きさは開墾された農地の広さと大雑把に

は比例する関係にあり、古墳の大きさは首長の強大さの示標となる。結局、強大な首長はより広い地域を影響下に置いたと考えることが出来る。

こうした大まかな見通しを与えることの教育的意義を「誤解を与える」として否定し去るべきではない。文科省の「認否書」は、「全ての古墳が農地開発と結びついているかのように誤解するおそれがある」という。そんなことはわかりきったことである。教育はステップのある文化だということがわからない教科書調査官が歴史教育をつまらなくしている元兇の一つであることがよくわかる事例である。

#### 40 欠陥箇所番号100 聖徳太子と古代律令国家

100	47	19 - 20	聖徳太子は、内政でも外交でも、8世紀に完成する日本の古代律令国家建設の方向を示した指導者でした。	生徒にとって理解し難い表現である。 (聖徳太子と古代律令国家建設との関係についての学説状況)	3-(3)
-----	----	---------------	--	---	-------

教科書は学習指導要領に基づいて編集・執筆される。教科書検定も学習指導要領に基づき行われる。最終的な決め手は学習指導要領である。そこには次のように書いてある。

「律令国家の確立に至るまでの過程」については、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きく捉えさせるようにすること。」

つまり、「律令国家の確立に至るまでの過程」という教育内容を、①聖徳太子の政治②大化の改新③律令国家の確立の3つの事柄を通して教えることを指示している。「聖徳太子の政治」がその最初に置かれているのだから、それは「律令国家の確立」に至る第一歩として他ならぬ学習指導要領が位置づけているのである。欠陥とされた記述はその指示に忠実に従っただけである。【聖徳太子は内政でも外交でも、8世紀に完成する日本の古代律令国家建設の方向を示した指導者でした】と教科書本文に書いた。何の問題もないし、「生徒にとって理解し難い表現」などどこにもない。

ちなみに教科書19ページのケイ囲み(整理番号33)には、聖徳太子の1行紹介として「日本の律令国家へ方向づけをした」と書いている。これには何の意見も付けていない。いい加減極まりない検定である。教科書調査官は学習指導要領を読んでいないのである。

#### 4 1 欠陥箇所番号130 古代の範囲

130	68		兄の一段目の吹き出し中、「古代までの日本は、約20万年前のアフリカでの「ホモ・サピエンス」(知恵のあるヒト)の誕生から、11世紀末の摂関政治の終わり頃まで、とても長いね。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (アフリカにおけるホモ・サピエンス誕生と日本の古代史とを結ぶ意味)	3-(3)
-----	----	--	--	--	-------

教科書の第1章は「古代までの日本」である。どうしてこういうタイトルを付けたかといえば、文科省が定めて強制力を持つ学習指導要領に、「古代までの日本」と書かれているからである。

ところで、戦後の歴史教科書は、神話から始めるのではなく、考古学から始めることになった。さらに言えば、人類の誕生から始めることもすっかり定着しているから、古生物学から始めると言ってもよい。

他方、日本の古代史は平安朝の摂関政治あたりまでである。いかにも長いので、自由社の教科書は独自の時期区分を試みた。詳しくは教科書本体を見ていただくことにして、1章のまとめを兄弟の対話で構成した。兄が言う。

【古代までの日本は、約20万年前のアフリカでの「ホモ・サピエンス」(知恵のあるヒト)の誕生から、11世紀末の摂関政治の終わり頃まで、とても長いね】

何とこれに検定意見が付き、「欠陥箇所」とされた。理由は「アフリカにおけるホモ・サピエンス誕生と日本の古代史とを結ぶ意味」が「理解し難い」からだという。

聞きたいのはこちらのほうだ。「ホモ・サピエンス」と「摂関政治」の間に直接のつながりがあるはずもない。学習指導要領がそうなっているから、仕方なくそれに合わせて教科書をつくっているだけだ。「長すぎる古代」は学習指導要領の責任である。まずいと思うなら学習指導要領を変えればよい。自分たちの責任を棚に上げて、民間の教科書会社に罪をなすりつける横暴はやめてもらいたい。

#### 4 2 欠陥箇所番号153 時宗と御家人

153	79	写真	「⑥北条時宗」キャプション中、「時宗はフビライの要求を拒否し、全国の御家人に戦う準備をよびかけました」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「全国の御家人」)	3-(3)
-----	----	----	---	-----------------------------------	-------

呼びかけたのと、動員したのと、派遣したのと、戦闘に加わったのはすべてイコールではない。しかも中世と近現代の差も大きい。中世は近現代ほど厳密な形で、呼びかけ、動員、派遣、戦闘参加が分かれていたわけではなく、また各々の分野でも百パーセント正確な数字で

はない。

戦闘に加わったのは九州の御家人が中心であった。また九州だけでなく山陰道、山陽道、四国などが動員の主体であったのも事実である。しかし九州などの西国だけでなく、北条時宗は鎮西に所領を持つ東国御家人に鎮西に赴くように命じ、さらに東北の安東水軍まで派遣している。

派遣レベルで見れば『鎌倉遺文』の「二階堂文書」では相模国を本貫にしている二階堂氏に九州の所領を守るよう命じたことがわかる。さらに派遣されただけでなく千葉氏のような東国御家人は九州に土着した者もいて、代表的な存在には肥前千葉氏の祖となった千葉頼胤がいる。さらに『兼光卿記』には鎌倉から北条時貞、式部大輔時広が鎮西に向かうと記されている。

また九州に所領を持つ場合は非御家人も動員されていて御教書「異国の防御」により寺社、幕府と主従関係を結んでいなかった一般荘園公領の荘官以下住人(本所領家一円地の住人)も異国防御に動員していることが安芸守護・武田信時への動員命令からもわかる。

さらに関東だけでなく東北の津軽半島北西部の十三湊に根拠地があった安東水軍まで派遣対象で、文応元年(1260年)には壱岐に安東館が築かれ、文永五年(1268年)には十三湊から筑紫に向けて安東水軍の大船21艘が出港して戦闘にも加わっている。ほぼ全国規模での呼びかけという表現に間違いはなく適切である。

#### 4 3 欠陥箇所番号166 十三湊

166	87	17 - 20	蝦夷地(北海道)では、アイヌとよばれる人々が、狩猟や漁業を行っていましたが、14世紀ごろに、津軽(青森県)の十三湊を拠点にした交易が始まり	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (アイヌが十三湊を拠点として交易を始めたように誤解する。)	3-(3)
-----	----	---------------	---	--	-------

上記の引用された部分について、「アイヌが十三湊を拠点にして交易を始めたように誤解する」として欠陥箇所とされた。しかし、こんな誤解をする者はいない。

- ・ 蝦夷地(北海道) アイヌ
- ・ 津軽(青森県)

と書き分けられていて、両者のあいだで交易が始まったのだから、津軽(青森県)を拠点としたのは日本人であることは自明である。

あえて「日本人が」と書いていないのは、文章全体が一貫して日本人の視点から書かれているからである。小見出しも「蝦夷地との交易」となっていて、当然、主体は日本人である。その証拠に、上記の引用部分に続いて、「鮭、昆布、毛皮などをもたらしました。それら

の産物は、日本海を通過して機内へも運ばれるようになりました。」と書かれている。

教科書調査官はパラグラフ全体を読まずに部分を途中で切れた形で不自然に引用し、「誤解する」とこじつけて欠陥箇所数を稼ごうとした。しかし、自由社現行版にも全く同じ記述があって、前回の検定では何の検定意見もついていない。「誤解」を言い張るなら調査官は前回の検定の責任をとって辞任してから主張すべきである。

#### 4 4 欠陥箇所番号 2 0 2 朝鮮出兵

202	115	図	さくらさんの吹き出し中、「朝鮮出兵って16世紀では世界最大規模の戦争だったといわれてるわ」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (確立した見解であるかのように誤解する。)	3-(3)
-----	-----	---	---	--	-------

朝鮮出兵の第一次に当たる「文禄の役」(1592年)において兵数は、日本は30万人前後を動員し15~20万人を派遣(「毛利家文章」によると15万8000人、「松浦叢書」では20万5570人)、「慶長の役」では14万1500人を派遣した。朝鮮は17万人前後の軍に義勇軍が2万人以上、明が4万~10万人近い遠征軍を送っている(明軍については、「文禄の役」で6万3000人、フロイスの記述では20万人という数字も見られている。「慶長の役」では『宣祖実録』は水軍を合わせ9万2100人となっている。『燃藜室記述』では両役を通しての明の動員数を22万1500人と記されている)。

これらの合計はヨーロッパにおけるドイツ農民戦争(1524~1525年)が最大に見積って30万人、また「万暦の三征」の「哮拝の乱」とは桁違いであり、やはり「万暦の三征」の「楊応龍の乱」で楊応龍の軍が14~15万人、迎撃に向かった李化龍は8路より各3万人の合計20万~24万人に比べ、最小に見積って匹敵、最大に見積れば凌駕しており、費用的にみても『明史』『王徳完伝』には「寧夏用兵、費八十余万、朝鮮之役七百八十余万、播州之役二百余万」、「陳増伝」には「寧夏用兵費帑金二百余萬。其冬。朝鮮用兵、首尾八年、費帑金七百余萬。二十七年、播州用兵、又費帑金二三百萬」とあり、最大のものである。

20万人の遠征軍を派遣し得たチムール帝国がなく、かつて50万人をタタール征伐に振り向けた明は国力が著しく低下しており、金声翰はアジアにおいて「一時に30万人の戦闘兵力を動員し得る国はオスマン・トルコとアクバルのムガル帝国、それに秀吉の日本だけであった」「明国の動員能力は水陸併せて9万余を上限とし10万人をこえることはなかった」と記しているが、ジェフリー・パーカーによればヨーロッパの過半を領有していた1558年に死去したカール5世が率いていた大軍も、西ヨーロッパの過半を領有していたフィリッペ二世の軍隊も15万人程度であったとされる。

対して秀吉時代の日本は総兵力50万人程度とされているが(1万石につき250~300人の動員で当時の日本の石高は2000万石程度)、同時代のスペイン無敵艦隊は3万人弱であった。ヨーロッパが朝鮮出兵を上回る兵力を動員したのは17世紀の30年戦争になってから

であり、アジアでも17世紀の「サルフ合戦」までない。

日本国内においても、朝鮮出兵の動員規模は、「応仁の乱」の28万人、「天正小田原の陣」の38万人弱（「大藤文書」に基づいた試算での最大数字。もっと少ない数字が一般には使われている）を上回る。「大坂冬の陣・夏の陣」でさえも両軍あわせて42万人とされている。従って、少なくとも16世紀において朝鮮出兵が「世界最大規模」であることに間違いはない。

#### 4.5 欠陥箇所番号242 間宮海峡

242	156	16 - 18	間宮林蔵は蝦夷地から樺太にかけて踏査し、従来大陸の陸続きであると思われていた樺太が島であることを世界で初めて発見しました（間宮海峡）。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （「世界で初めて発見」）	3-(3)
-----	-----	---------------	---	-------------------------------------	-------

サハリンと樺太の違いは？ 樺太は半島か島か？ これは世界地理上の謎であった。多くの地理学者・探検家は、謎の解明に挑戦し、サハリンと樺太は同一だが、樺太は半島であるとされた。1805年、クルウゼンシュテルンは、樺太の最北端に到達後、西海岸を南下したが浅瀬で断念、樺太はアムール川（黒竜江）河口の南で大陸と接続する半島との最終結論が下された。

文化5年（1808年）、ロシアの南下に脅威を感じた幕府は、「樺太のすべての海岸線、および異国との境について調査せよ」との調査命令を松田伝十郎と間宮林蔵に与えた。松田は、樺太北部が大陸に最接近する地（ラッカ）まで行き、現地の聞き取りや北行につれて海が狭く浅瀬になるが潮流も強くなることから、樺太が島であることを確信した。同年7月、間宮は樺太の東海岸をラッカよりさらに北上、黒竜江河口を確認したうえ、樺太最北部近くに到達、海が北方に大きく開け、間違いなく**樺太が「島」であることを確認した**のである。間宮は、大陸に渡って黒竜江下流も調査し、清国の出張役所があるデレンにまで到着、極東地域や樺太に**ロシア帝国の勢力がほとんど及んでいない**ことを確認した。

1832年に刊行されたシーボルトの大著『Nippon（日本）』の中で、間宮林蔵の間宮海峡（MAMIYA NO SETO）発見が、学問上の大功績として賞賛されている。また、シーボルトが日本から持ち出した樺太地図をクルウゼンシュテルンに見せたとき、彼が「これは日本人の勝ち（我らの負け）だ！」と叫んだと記述している。ただし「間宮海峡発見」の記事はあまり流布されないまま、世界では樺太半島説が信じ続けられた。

1849年、東部シベリア総督ムラヴィヨフ配下の遠征隊は樺太北部からアムール河口に到達後に南下、樺太と大陸間に幅七キロメートルの海峡を発見した。ロシアは、遠征隊長ネヴェリスコイ大佐が**世界で初めてこの海峡を発見したと勘違い**して、海峡最狭部をネヴェリスコイ海峡と命名し、その戦略的重要性から海峡発見を機密事項とした。

1855年、クリミア戦争で、イギリス艦隊は間宮海峡の南にロシア艦隊を発見、樺太半島説が世界地理の通説であったので、イギリス艦隊はロシア艦隊を追い込み、湾口を封鎖しロシア艦隊を探索したが捕捉できなかった。戦後、ロシア艦隊は間宮海峡を通過して北上して逃げたことが明らかとなった。ここに**樺太半島説は誤り**がイギリスをはじめ世界各国の知るところとなった。

明治14年（1881年）にフランス地理学者ルクリュの『万国地誌』が刊行された。その第6巻「アジア・ロシア」においてシーボルトが記した「MAMIYA NO SETO」の名称が使われた。世界地図の地名に日本人として唯一、間宮の名が明記された。

世界的に著名な作家チャーホフは、その著『サハリン島』で、日本の測量師間宮林蔵が、一八〇八年、島の西海岸を小舟で航行し、<sup>だつたん</sup>韃靼地方とアムール河口に滞在して、注目すべき地図を作成したと記している。そして、まぎれもなく「**彼（間宮）が最初にサハリンが島であることを証明したのだ**」と述べている。チャーホフは、日本人が最初にサハリンを調査したことを説明し、ヨーロッパでは、日本人の貢献が認識されていないとも指摘している。チャーホフは、シーボルトの文献や自らのサハリン島での3カ月間にわたる調査結果から、確信したのである。

現在、世界各国の主要地図は、間宮海峡ではなくタタール海峡と表記されている。シーボルトやチャーホフの対日評価はロシア側に不利な情報として意図的に削除されている。このままでは日本人の功績も忘れ去られるだろう。本来、樺太は、日本の先人たちが世界に先駆け、探検・開拓をした土地だ。それを当時の帝政ロシアも認識していたからこそ、国力では圧倒していても日露和親条約・日露修好通商条約で「樺太は日露両国の雑居地である」と取り決められたのである。

樺太は、世界史上、日本人が、現地人以外で初めて島であることを確認し踏査した地である。日本人自身、とりわけ政治家・歴史家・教育者は良く知る必要がある。

#### 4 6 欠陥箇所番号253 錦の御旗

253	64	写真	「③錦の御旗」キャプション中、「かつて、承久の乱の後鳥羽上皇や…がかかげました。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (承久の乱で後鳥羽上皇がかかげたとするのは断定的に過ぎる。)	3-(3)
-----	----	----	---	---	-------

信頼性の高い『国史大辞典』には、「鎌倉時代に入って承久の乱にあたり、後鳥羽上皇から十人の大将に錦御旗を賜わって官軍の標としたことが『承久記』にみえており、また『太平記』三、笠置軍事附陶山小見山夜討事に「此ニテ一息休メテ城ノ中ヲ屹ト向上ケレバ、錦

ノ御旗ニ日月ヲ金銀ニテ打テ着タルガ、白日ニ耀テ光リ渡リタル其陰ニ」と記されている」とある。「標」とするには、外から見える必要があり、それをシンボリックな意味も含めて「かかげた」とするのは、まったくもって失当ではない。

以上が、自由社が文科省に提出した反論である。

しかし、「反論認否書」を見て驚いた。認めない理由が変わっていた。「後鳥羽上皇が承久の乱においてこのようなデザインの旗を掲げたように誤解するおそれがある」。デザイン？ デザインの話はいつでてきたのか？ ここまでくるともはや茶番である。

#### 4.7 欠陥箇所番号288 内戦下の中国

288	199	20 - 21	清朝滅亡後の中国は、軍閥の割拠する無法地帯と化しました。	生徒にとって理解し 難い表現である。 (「無法地帯と化し ました。」)	3-(3)
-----	-----	---------------	------------------------------	--	-------

【清朝滅亡後の中国は軍閥の割拠する無法地帯と化しました】という記述の【無法地帯と化しました】が理解しがたい表現だという。しかしながら、おそらく生徒は「そうか、統一国家が順調に成立したのではなく、軍閥が割拠して争う無法状態になったのか」と理解するであろう。教科書調査官は、このように理解されるのが多分困る、ということなのだろう。

辛亥革命によって清朝が滅亡し、中華民国が成立し、孫文が臨時大総統に就任した。しかし、実力者の袁世凱がこれを引き継ぐが、その死後、軍閥割拠となり、孫文は広州で政府を組織し、北京は北洋軍閥の支配するところとなった。

北洋軍閥の主たる軍閥指導者は、約20人、孫文を含む地方軍閥は、40人という文字通りの群雄割拠の時代が、1918年から、蒋介石の北伐が終わる1928年まで続いたのである。

この軍閥間の内戦は絶え間なく続いた。大きなものとしては「安直戦争」「第一次奉直戦争」「第二次奉直戦争」などあるが、地方軍閥間の戦争も、例えば四川省内だけでも約500回の軍閥内戦があったという。ノーベル文学賞候補にもなった著名な著述家の林語堂はこの内戦7年間の犠牲者は、総計3千万に及ぶと推計している。

このような状態にあった中国を「無法地帯」と表現することは、きわめて適切である。

#### 4 8 欠陥箇所番号 3 1 6 北伐と中国共産党

316	228	囲み	「③コミンテルンの世界戦略と中国」中、「北伐の中国革命軍に潜り込んだ共産党員は、1927年、南京で日本を含む各国の大使館を襲い、略奪、暴行、殺人の限りを尽くしました。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (断定的に過ぎる。)	3-(3)
-----	-----	----	--	-----------------------------------	-------

断定的というが、北伐軍の南京における暴行、略奪、殺人については、詳しい資料があり、ここに書かれた通りであることが判明している。たとえば、中支被害者連合会『南京漢口事件真相 揚子江流域法人遭難実記』（1927年）に詳しい。

おそらくは、教科書調査官は【国民革命軍に潜り込んだ共産党員】というところにクレームをつけたいのであろう。しかし、前記遭難者の資料でも「共産党の計画的暴挙」であったと書かれている。断定しているのは当時の資料である。

蒋介石がどう言っているかという、「この事件はあえて外国の干渉を誘って蒋介石を倒す中国共産党の計画的策謀で、事件のかけにはソ連の顧問ミハイル・ボロディンがいる。ボロディンの指示で共産党員の第2軍、第6軍政治主任を通じて軍長の程潜を操った」（『蒋介石秘録7』）。

南京事件の北京への波及を恐れた列強は、南京事件の背後に共産党とソ連の策動があるとして、日米英仏など7か国外交団が嚴重かつしかるべき措置をとることを安国軍司令部に勧告した。4月6日、張作霖によりソ連大使館を目的とした各国公使館区域の捜索が行われた。押収した極秘文書に外国の干渉を招くための略奪・惨殺実行などを実行する指令がソ連共産党からあったことが、総司令部により発表された。

調査官は、提出された資料からは、指摘箇所のような記述は構成できないというが、全く無理なく構成できる。

#### 4 9 欠陥箇所番号 3 5 6 インドネシア独立と皇紀

356	249	19 - 21 下	西暦の1945年を使わず、独立の機縁となった日本に敬意を表して、独立記念日を日本の皇紀で表現したのです。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (インドネシア独立宣言文で皇紀を使った理由について、断定的に過ぎる。)	3-(3)
-----	-----	--------------------	--	--	-------

日本が先の大戦でインドネシアをオランダの支配から解放すると、独立後の国軍の前身となる郷土防衛隊（ペタ）を結成して訓練したが、日本が敗れると、ペタが独立軍となって

戻ってきたオランダ軍を迎え撃ち、4年におよぶ独立戦争に勝って独立が認められた。

二〇〇一年の東宝映画『ムルデカ 05817』は、当時の日本軍政部、独立軍の多くの幹部にインタビューして著された書籍を原作として製作されたものである。

日本は一九四五年九月にインドネシアを独立させることを決定していた。八月十五日に日本が敗れると、独立運動の指導者だったハッタ、スカルノが直ちに独立を宣言したいと希望したが、日本側は連合国の報復を恐れて強く反対した。しかし、二人は二日後の八月十七日に独立を宣言した。

インドネシア国防省は、鳩山由紀夫内閣の時に、防衛省にペタ総隊長で独立軍司令官となったインドネシアの国民的英雄スディルマン将軍の銅像を贈った。2016年に、防衛省構内にたつ将軍の銅像が放置されているのがわかり、関係者の努力で有志を募って8月17日のインドネシア独立記念日に献花式を始め、それが毎年の恒例となった。初回からインドネシア駐日大使が武官、館員を連れて参加している。

そのつど、大使が献花後の挨拶のなかで、日本に感謝して将軍像が贈られたことに触れている。スディルマン像は世界のなかで、日本だけに贈られている。独立宣言文の日付は日本への感謝を表して、皇紀で「05年」と記している。05年がキリスト暦1945年にあてはまる紀年法は世界の中で日本の皇紀しかない。

## 50 欠陥箇所番号369 中華人民共和国

369	264	表	「①冷戦の経過」中、 「1949・・・中華人民共和国 (共産党政権) 成立」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (成立時の中華人民共和国の性格)	3-(3)
-----	-----	---	--	---	-------

中華人民共和国成立時、中国人民政治協商会議に参加していたお飾りの政党(というより政治勢力)があったことは事実である。当時毛沢東は「新民主主義論」を唱えていて、左翼勢力である限り一定の政治勢力の存在を認めていた。

しかし、中華人民共和国の建国は、あくまで毛沢東と中国共産党が、蒋介石国民党政権を軍事的に破って追放したのち、1949年10月1日、毛沢東の名において建国宣言を行って成立したものだ。これを「中国共産党政権」と呼んでおかしい理由は何もない。

このようなカモフラージュは共産党のお得意の手である。そもそも統一戦線戦術自体が、他党派をうまく取り込んで権力奪取の後には切り捨てるという作戦のことなのだ。

実際、毛沢東は建国後、1953年までに反革命派とみなした勢力を数十万人殺害し、百数十万人を逮捕拘束したといわれる。54年には「新民主主義論」自体が放棄される。

だから、検定意見のようなことを言い出せば、ことは中国に留まらない。ロシア革命も「連立政権」になってしまう。ソ連ではレーニンと彼の率いるボルシェヴィキが1917年に革命

で政権を打ち立てた。これは、本当は革命ではなく非合法のクーデターであったが、当時は様々な政党がロシアには合法的に存在し、ソ連政府にも初期段階では、左翼社会革命党という同じく革命政党が政権に参加していた。しかし、ソ連の成立を「連立政権の誕生」とは言わない。

ロシアの左翼革命党は1918年の段階でソ連政権から離反、レーニン政権に反対してテロ活動まで行い、徹底的に弾圧された。他の諸政党が、ロシアの将来の民主化のために期待をかけていた「憲法制定会議」も、レーニンの暴力的弾圧で解散させられた。こういう大局を見れば、中国もソ連も、「共産党（独裁）政権」というくくりで中学生に教えて何ら問題はない。

歴史を専門的に学ぶ場合は必要かも知れないが、中学生がまず大きく現代史をたどる時、中国で1949年10月1日に成立したのも、1917年にロシアで成立したのも、共産党政権だと学ぶことには何の問題もない。

また、仮に「連立政権」であると言ってみたとしても、それが「共産党政権」であるという本質的な性格付けと矛盾するものではなく、それを排除するものでもない。これは教科書調査官が、この本質を覆い隠す「木を見て森を見ない」屁理屈の徒であることをよく示す事例である。